住民説明会要点記録

質疑１	来年度から１年生になる子どもの保護者だが、小学校を新しく２校に統合するということで、小中一貫は考えていないという理解でよろしいか。
回答	あり方検討委員会の中で、義務教育学校とした場合も含めて検討してきた。令和12年度に新しい学校を開校することを考えており、既存の中学校の校舎に小学生を入れるとなると階段やトイレ等の設備を小学校向けに改修しなければならず、時間を要する。アンケート結果も踏まえ、中学校区に１校ずつに統合することで考えている。
質疑２	いずれの小学校も古いということを示していただいたが、どこかの小学校の校舎に統合するのか、新しい学校を２校新設するのか、現段階で決まっていれば教えていただきたい。
回答	小学校再編準備委員会で検討を進めるが、令和 12 年度の開校に向けて新築する場合は時間がかかるため、既存の小学校を活用することを考えている。ただし、今ある学校をそのまま使うことは、子どもたちにワクワク感を持たせられないと考えているため、トイレの洋式化等の改修をしながら、令和12年度の開校に向けて進めていきたい。
質疑３	どこの小学校に統合するか決まっているのか。
回答	地域住民の意見をしっかりと聞きながら、小学校再編準備委員会で検討していきたいと考えている。
質疑４	既存の小学校を改修している間、その学校に通っている児童の教育体制はどのようになるか。
回答	できるだけ長期休暇を上手く利用しながら進めたいが、長期休暇だけではできないこともあると思うので、子ども達に負担をかけない方法を今後検討していきたい。
質疑５	中学校区で分けた時に、将来的に高田中学校区と東部中学校区の児童数の偏りが生じるのではないか。児童数が偏ることで、学校の質として差が生じるのではないか。また、校区が広域になると子ども同士、保護者同士の交流が難しくなる。小学生は自転車での移動範囲も広くない。これまでにも問題が起こった時に、保護者同士がすぐに集まり話し合うことで解決できた。地域単位であればすぐに集まって話し合うことができるが、広域となると集まることは難しいのではないか。普段関わりのない人達のため、どのように連絡をとるかが心配である。 今後は、統合により様々な地域から集まってくるため、各地域のまとまりが薄れる。地域としてのまとまりをどのように補っていくのか。クラブ活動や習い事などに参加できていない子どもは、交流する機会が少なくなるのではないか。
回答	現時点においては、高田中学校、東部中学校は概ね同じ人数であり、今後も同様の

	傾向で推移する見込み。 また、ご質問の「問題が起きたときの対処法を含めた保護者同士の交流」については、地域が広くなったとしても、集まりが必要なときなどは学校から詳細に連絡をさせていただく。また、専門部会の PTA 地域部会の中で、今後の PTA のあり方や保護者同士の交流について検討していきたい。そして、各小学校が大事にしていること、地域が大事にしていることを踏まえて、専門部会の教育部会の中で丁寧に相談しながら、子ども達がわくわくして新しい学校に通えるように考えていきたい。学校のあり方検討委員会を開催するにあたり、近隣の市町の事例も聞きながら調査研究してきた。今後も様々な事例を参考にして考えていきたい。
質疑６	小学校２年の保護者ですが、令和 12 年度に開校となると中学生になっている。遅くとも令和 12 年度に開校との説明があったが、逆に早まる可能性はあるのか。
回答	１年でも早く新たな学校を開校したいという思いはあるが、子ども達が新しい学校にワクワクした気持ちをもって通えるようにするために、校舎の改修も含めて、様々な事項を熟議していきたい。様々な意見も取り入れながら進めていくと令和 12 年度の開校になると考えている。
質疑７	再編されると、その学校の校則はどのように考えるのか。また、統合された場合、地区によっては整備が必要な道路が多くある。スクールバスのルートをどのように考えるのか。
回答	校則については、子どもや保護者の意見も聞いて、見直しながら学校経営していきたい。また、スクールバスについては、再編した場合、全児童が徒歩で通うことは難しいと思っているため、地域住民も含めた専門部会の施設通学部会の中でしっかりと考えていきたい。
質疑８	望ましいクラス数が２～３クラスとなっていたが、想定される児童数から計算すると、町全体で小学校を２校というのは数が合わないのではないか。
回答	１クラスの人数は県で決められており、35 人までが１クラス、36 人以上となると２クラスになる。学校数については、学校のあり方検討委員会においても将来的な児童数の減少を見据えると１校にした方が良いという議論もあったが、地域とともにある学校を目指す中で、いきなり７校から１校に統合してしまうと地域とのつながりを持つことは難しいのではないかということで７校から２校に統合することとした。また、養老町はエリアが広いため、１校にした場合、スクールバスを多く運行させる必要がある。さらに、スクールバスを利用しても通学に時間を要するという問題点もある。アンケート調査を踏まえても通学時間を 30 分以内にすることを考慮して、まずは２校にと考えた。
質疑９	中学校の築年数を教えてほしい。
回答	中学校の築年数は、高田中学校は、北校舎が昭和 36 年、南校舎が昭和 63 年に建築、東部中学校は、北校舎が昭和 56 年、南校舎が昭和 54 年に建築されている。

質疑 10 回答	開校時期をもっと早められないか。あと５年かかる理由を説明していただきたい。 統合先の学校が決まれば、既存の校舎を改修していくことを検討しているが、設計、改修を進めていく中で、他の市町の統合した事例も調べたところ、やはり５年程度はかかっている。各専門部会の検討課題の中には、学校ができてから検討できることもあるので、課題に対し、優先順位をつけて協議していき、少しでも早く進めていきたい。
質疑 11 回答	他の市町で既に小学校の統合が進んでいるところがあるので、良い点・悪い点をお手本にすれば良い。令和９年中旬までに何を検討するのか。 設計をする上でも、様々な手続きが必要であり、相応の時間を要する。養老町としても少しでも早くやっていきたい思いはある。財政面の負担軽減についても検討しながら進めていきたい。
質疑 12 回答	各学校で今まで大切にしてきたものや、これまでの PTA の方が出してくださったお金はどうなるのか。 各小学校で大切にしていることがそれぞれあるため、各小学校の職員や PTA の意見を聞きながら、専門部会の教育部会の中で教育課程をどのように進めていくか相談していきたい。
質疑 13 回答	私の子どもは途中で統合先の学校に行くことになる。最初から、統合先の学校に通うことはできるのか。 現住所の学区の学校に行ってもらうことを原則としている。不安な部分もあると思うので、学校間で交流活動をしながら、統合を進めていきたい。
質疑 14 回答	答申が出されたということは、統合することは決定であり、統合するかしないかについて住民の意見を聞く場は今後ないということか。 あくまでも答申であり決定事項ではないが、答申が出るまでに住民アンケート調査の実施や学校のあり方検討委員会での議論を重ねてきたので、統合の方向性で進めたいと考えている。
質疑 15 回答	シンポジウムに参加したが、シンポジウムでは既に統合してスタートされている上石津学園と海津小学校だった。シンポジウムの時点で既に統合することが決定されているのではないかと感じた。山県方式に関する説明もあったが、統合せずにうまく運営している学校や、山県方式でなくとも、恵那市や中津川市、飛騨市など単独で運営されている学校などがあるのに、そのような学校になぜ来ていただけなかったのか。単独で運営されている学校に関する情報を町民に発信していただけなかったのかが疑問に思っている。 シンポジウムについては、近隣の学校の取組状況を発信するため、西濃地区である海津市と大垣市の学校を選んだ。統合ありきではないかというご意見もいただいたので、統合しない山県方式について取りまとめ、あらためて地域住民に対し、

	「学校のあり方通信」を町広報紙に折り込みにて配布させていただいた。教育委員会でも、山県市に伺い、統合しないで運営していくメリットやデメリットについて協議してきた。統合しない場合は、１時間の交流授業を行うにあたり、スクールバスでの移動時間を含めて２時間分の授業時間を確保する必要がある。教職員の負担が非常に大きいと聞いている。統合ありきではなく、様々な事項を検討したうえで、統合することが養老町にとって最適な方法だと考えてきた。また、児童生徒のアンケート調査から、通学に 30 分以上かかるのは負担であるという結果が出ていることも踏まえ、中学校区ごとで小学校を１校に統合するという答申が出された。
質疑 16	既存の小学校を改修することになると思うが、そこに通学している子どもたちが通っている中で、並行して工事が行われるということか。
回答	子どもたちが学んでいる中で工事を実施することになると思うが、子どもたちの学びを止めないことが教育として最重要なため、長期休暇期間に大きな工事を実施するなど、子どもたちに支障がないように進めていきたいと考えている。
質疑 17	子どもたちが多様な考え方を身に付け、大勢の中で学び合う必要があるので、統合することは仕方ないと思っている。統合については教育委員会の方針で良いと思っている。今後５年間が大事になってくると思う。いきなり５年後に小学校が統合しても人間関係などぎくしゃくしてしまうのではないかと思う。不安を解消するために、小学校間の交流をどのような形で進めていくのか具体的に教えていただきたい。また、ふるさと学習とあるが、それぞれの学校の伝統があると思うが、小学校を統合する中でふるさと学習の取り組み方を教えていただきたい。
回答	統合にあたって子どもたちに配慮することとして、各学年が集まる合同授業や交流活動は行っていきたいと考えている。令和１２年度に子どもたちが初めて顔を合わせるということがないようにする。また、教育委員会として出来ることとして教職員の人員配置も検討していきたい。 また、ふるさと学習については、養老町は地域ごとに大事にしていることがあり、その伝統があって今の学校があると思っている。専門部会の教育部会の中でどのようにふるさと学習を進めていけば良いかを検討する。教育部会は教員が中心になるので、各地域の教職員に入っていただくことも考えている。 それと、専門部会のＰＴＡ地域部会においても、地域住民の意見を聞きながら、これまで大事にしてきたふるさと学習をなくすのではなく、どのように取り組むかを今後検討していきたい。さらに、大人だけでなく、どのような学校にしたいか、どのようにふるさと学習を行いたいかについて、子どもたちの話し合い活動も活発に進めていきたいと考えている。
質疑 18	令和１２年度に統合することを前提に、既存の小学校を改修するという説明でしたが、例えば統合の時期を延ばして、その間に新しい学校をどこかに建てるという検討はされたか。

回答	統合の時期を後ろ倒しにして、新しい学校をつくった方が良いのではないかということも議論した。今の児童生徒の人数を踏まえ、小規模となっている学校がある中で多様な考えに触れるということが難しい。また、児童生徒のアンケート結果でも、１学年に２学級以上を望む意見が多くあったので、そういったことを踏まえて令和１２年度に２校に統合するという結論が出た。
質疑 19	あと２０～３０年後に７校の建替え時期が到来するとあるが、その時期には新しい学校を建てるということか。５年後に既存校舎を改修して統合されるが、そこから十数年後にはその校舎も建替えなければならないと思うが、その時にはどこか違う場所に新しい小学校をつくるという計画か。
回答	今は小学校を中学校区ごとに１校ずつにするという答申が出ているが、子どもたちの人数も減ってくるので、将来的には９年間の義務教育学校も視野にいれて検討していく必要があると考えている。その時の校舎については、どうするかが決まっていないため、現時点で明言することはできない。
質疑 20	統合した場合は、バス通学になるのか。
回答	今後検討していくが、児童生徒のアンケート結果から３０分以上の通学は負担になると感じているので、全員が徒歩通学は不可能だと考えている。事務局としては、バス通学も含めて検討する必要があると思っているが、どのように運用するかについては、今後、専門部会の施設通学部会の中で検討していく。
質疑 21	仮に他の学校に統合された場合、各小学校の校舎や体育館はどのように活用されるのか。
回答	残った学校の校舎をどのように活用するかについて、令和１２年度に統合してから考えていては遅いので、専門部会の施設通学部会の中で統合と並行して校舎の活用を考えていきたい。体育館については、避難場所のため、今後も継続して維持することを考えている。
質疑 22	将来世代が負担するコストの軽減と課題が挙げられているが、将来世代が負担するコストの軽減の根拠を教えていただきたい。改修時に費用がかかり、統合後も数十年後に新しく建替えるとなるとさらに建設費がかかるかもしれない。通学方法でスクールバスを利用するとなると運営費もかかってくる。さらに、廃校になった学校の維持管理費もかかり、多くの予算が必要になると思う。
回答	費用だけを考えて統合するということではない。既存の７校を維持するためには様々な箇所を改修する必要があり、費用がかかってくる。税金を使う事業のため、予算も大事ではあるが、今、目の前にいる子どもたちや保護者から多くの人数を望む意見がたくさんある。少人数では交流することが難しい中で、全員ではないものの大多数の意見として１年でも早く統合することが望ましいということが挙げられている。子どもたちや保護者、地域住民が統合を自分事として捉え、目の前の子どもたちのためにどうしたら良いかということを一緒に考えていただきたいと思

	っている。今後、地域の皆様の意見を聞きながら、詳細について詰めていきたい。
質疑 23	教育委員会としては、答申に基づいて進めていくと思うが、町全体での事業になってくるので他部署から止められる可能性はないか。また、２段階での統合ではなく、１回で一気に統合した方がよいのではないかという意見が出てこないか心配になった。適正規模を踏まえると、昨年度、養老町で生まれた数は７０名以下だと思うが、その子どもたちが新しく統合された学校への入学時点で１学級になるのではないか。
回答	事務局として、教育委員会で進めているが、教育委員会だけではなく町全体の問題として役場全体と連携しながら進めていく。令和６年度に生まれた子どもは７０名弱なので、１学級になる可能性もあるが、７校をいきなり１校にすることは非常に難しい。養老町としても子どもが増えるよう、子育て支援対策も考えているので現時点では７校を２校に統合することを考えている。
質疑 24	本検討に対するスピード感が不足していると思う。小学校再編準備委員会は令和８年度までに完了し、各部会の検討も２年程度でおさめ、手戻りがないよう余裕をもった令和１２年度の開校を目指すべき。本来であれば教育委員会が主導で基本的事項は決定し、検討結果を再編準備委員会に報告する等、スピード感をもって検討していただくことが望ましい。各部会の検討事項については、海津市や大垣市による近隣の実績を参考にすれば早く結論が出せると思う。他市町の実績を有効活用して検討を進める方が良いと思う。 最重要な課題としては、場所の選定である。養老町の財政面を考慮すると新しい学校をつくることは難しい。笠郷小学校の児童数のピークが５８０名であったため、令和１２年度の東部中学校区の児童数に対して２倍以上のキャパを有している。仮に現笠郷小学校に統合した場合、校舎を有効に活用すべきである。また、笠郷小学校であれば、給食棟を有効に活用しながら工事をすることで児童への影響は必要最小限に抑えることができると思う。上部組織でできるだけ決めて、現場の教職員に対する負荷を軽減できるよう配慮していただきたい。学校の名称は、東部中学校区であれば東部小学校でも良いのではないか。また、中学校の校歌を取り入れれば良いのではないか。
回答	新たな学校を新築する場合には、用地の確保などに相応の時間を要する。現時点では、既存の学校を改修したいと考えている。子ども達がワクワク感を持てるよう、少なくともトイレの洋式化などの改修をしたいと考えている。学校のあり方検討委員会では、東部中学校に統合すれば良いのではないかという議論もあったが、現段階で東部中学校に統合することは人数的にも困難である。また、階段やトイレを小学校用の仕様に改修しなければならず、改修範囲が大きくなってしまう。統合先の学校が決まらなければその後の検討が進まないため、再編準備委員会において、可能であれば今年度中に統合先の学校を決定したいと考えている。また、近隣市町の事例については、事務局でも調査研究している。当然、各事例を参考にさせていただくが、養老町が大事にしている地域連携という視点も取り入れて、養老町とし

	ての教育を考えていきたいと思う。ただ統合するだけでは、子どもたちの教育が変わるわけではないので、子どもの意見を大事にして、どのような学校にするかを考えていきたい。教育委員会から案は提示するが、学校は地域との連携が必要なため、住民の皆様の意見を聞きながら、スピード感を持ちつつ順序立てて進めていきたい。
※ 要望	早く進めることで現場の教職員のリスクを減らせると考えている。 また、教育委員会が知見を持ち寄り、プライドを持って主導していただきたいと思う。現場の教職員に負荷をかけない策を考えていただきたい。
質疑 25	ホームページだけではなく、町広報紙を通じて進捗状況を伝えていただきたい。ホームページや議事録を見る人はあまりいないと思う。町広報紙に特集ページをつくったり、学校のあり方検討委員会の開催結果を出したりしていただきたい。学校のあり方検討委員会の議事録を拝見すると、委員の熱い思いが伝わってくる。保護者を巻き込んで進めることが大事、魂のこもった学校、ワクワクする学校といったような言葉がたくさん出てきた。一方で、保護者間ではアンケートの結果を知らなかったり、統合に関する話題がほとんど出ていなかったり、進捗状況について十分に共有されていなかったりと温度差があるように感じる。これから進める再編準備委員会や部会の検討状況を随時情報発信していただきたい。
回答	なかなかホームページだけ伝わらないところがあると思うので、町広報紙等を通じて情報を発信していきたいと思う。
質疑 26	教育委員会だけでなく、子育て支援や建設、総務など他部署も含めて横断的に進めていただくことだと思う。このような説明会は、今後どの程度の頻度で開催されるのか。そこには、教育委員会だけが出席されるのか。小学校の統合が子ども達の不登校の引き金にならないように、環境の変化をできるだけなくす等の対策を講じていただきたい。こども家庭庁でこどもまんなか社会が表明されているが、こどもに関して給食を段階的に無償化する等が示されている。子どもの人数が減れば、取組みやすくなると思うので進めていただきたい。給食も自校方式とすると宣言されているので、ぜひとも実施していただきたい.
回答	小学校の再編は、教育委員会だけの課題ではないため、町全体で連携して進めていきたい。統合するにあたって子どもたちが不安感を抱かないよう、今後、交流活動をより一層行いながら進めていくとともに、教職員の配置を教育委員会の役割として考えていきたい。また、給食については、養老町は自校方式を大事にしてきた。これからもできる限り自校方式を続けていきたいと考えている。これまで養老町が大事にしてきたことは守りつつ、新しく取り入れられることは取り入れながら進めていきたい。
質疑 27	資料 p.12 下段、「今後、養老町の学校教育にといて大事にしたい３つの願い」の３つ目の趣旨が分かりにくいため、教えていただきたい。また、資料 p.16 上段に、「人権学習やふるさと学習」とあるが、ふるさと学習では、実際にどのような教育をされているのか。各地域にある祭りへの参加というようなことを指すのか。中学

	校区ごとに１つの小学校に統合されたときにどうなるのか教えていただきたい
回答	まず１つ目のご質問への回答として、「学校・先生・仲間 ふるさと養老へのあこがれをもつ」としているが、これは養老町の小学校に通ってよかったと思える学校にするため、まずこんな児童生徒になりたいと下級生が思えるような学校にしたい。実際に、現在の高田中学校の教員は 1/3 が高田中学校の卒業生である。このように、卒業したときに心からこの学校でよかったと思える学校にし、さらに大人になったときに養老町に戻ってきたいと思えるような教育を展開したいと考えている。 ２つ目のご質問への回答として、ふるさと学習については、地域ごとに大事にしている文化があるが、小学校が統合されたときには、地域の文化を取り入れられると良いと考えている。現在のふるさと学習では、自分の校区の良さは分かるが他の小学校区の良さが分からないところがある。養老町すべての良さが分かるような教育をしたい。具体的にどのような教育内容とするかについては、今後、専門部会で検討を進めていく。
質疑 28	通学時間について、児童生徒にアンケートをとったということだが、あくまでこどもの主観になってしまうと思う。これに対して、明確な適正距離があると良いと思う。また、通学に対する方策があれば教えていただきたい。
回答	アンケート調査は、小学校４年生以上の児童生徒を対象に行った。また、保護者や地域住民にもアンケート調査をとっており、その結果として通学時間は 30 分以内が望まれていると整理している。小学校を２校に統合した場合、全児童が 30 分以内に徒歩で通うことは現実的ではなく、何かしらの方策は必要だと考えている。
質疑 29	通学が徒歩では難しいということであれば、バス等を利用されると思うが、通学路の確保ということで、道路の整備も含めて協議していただきたい。
回答	通学に関することについては、スクールバスの運行方法も含めて、専門部会の施設通学部会の中で検討を進める。バスが安全に通れるルートについても協議していきたい。